

ローヤルルマニユース

No.156

発行 ローヤル油機株式会社 2007年3月3日

〒979-0202 福島県いわき市四倉町上仁井田字家ノ前 107-4 TEL.0246-32-6657 FAX.0246-32-6658

Eメールアドレス GSP00013@nifty.com

HPアドレス <http://homepage1.nifty.com/loyal/>

【ロングタイムPDグリース 0,1,2】 オプチモール社

1. リチウムグリースにオプチモール社が誇るMicrofluxを配合した長期潤滑用グリースです。
2. 用途：非常に高い荷重・振動・衝撃下で駆動する各種軸受け、ギヤボックスに有効です。
3. 特徴：Microfluxの配合により、耐圧力の増大、摩擦係数が低下、騒音の減少にもなる。
4. 荷姿：18kgP/L、ジャバラ 400g × 20本

下館物語 16

親戚が住む仙波までは、荒町の家から歩いて四、五十分は掛かる。子供の足だから、多分小一時間はかかったのだろう。

石畳の坂を上り牛の背のような丘陵の道を歩き、消防署の前を右に折れてしばらく歩くと、この町一番の大きな川にぶつかる。コンクリート製の橋を渡り、関東平野の田園風景が広がる田舎道を歩くと、やがて青々とした桜の木が生い茂る家が見えてくる。そこが仙波の家だった。

母屋の片隅には、映画・多羅尾伴内シリーズ七つの顔の男 に出てくる「せむし男」と同じ姿のタツツアンがいた。タツツアンは確かにせむしだったが、表情は穏やかでいつも優しい目をしていた。

「ターボ、よく来たなあ。暑かったら、いま冷たいサイダー持ってきてあげるから、待っている」
「うん、ありがとう」

タツツアンは、カナリヤが好きだった。真黄色なやつや巻き毛で少し赤みがかったやつもいた。軒下にも部屋の

『東京の女(ひと)』

中にも、大小の竹製の鳥かごが所狭しとぶら下げられていた。

しばらくすると、両手にサイダーとコップを載せたお盆を持った女の子が、母屋から出てきた。

「義之さんの娘でりつ子と言うんだ。お前と同じで、夏休みになって東京から遊びに来ているんだよ。仲良くしてやってくれ」
「うん」
「りつ子です」

鮮やかな水玉模様のワンピースが、川面を渡る夏の風にゆれていた。りつ子は、私より二、三歳年下だった。都会の洗練された姿と清んだ黒い瞳が印象的で、きれいな女(ひと)だった。

三人でサイダーを飲みながら、私たちはタツツアンにカナリヤの飼いや鳴かせ方を教えてもらった。それが飽きてしまうと、二人で畑を横切って川沿いの土手を歩き、近くにあった小学校に遊びに行った。ブランコに乗りながら、日が暮れるのも忘れて話していた。
荒町に帰宅したときは、日はとっぷりと暮れていた。心配したオカアチャンが、門の前で待っていた。

あとがき

在日韓国人の小松さんが亡くなった。93歳だった。私たちの小さい頃は、自転車の荷台にアイスキャンデーの入った大きな箱を載せて街の中を売り歩いていた。再会したのは、私が創業して間もない頃で小松さんは古物商を営んでいた。機械に使う潤滑油を持っていくと、いつもご夫婦で温かく迎えてくれた。「佐藤さん、お茶飲もうよ」が、口癖だった。湯気が立つサツマイモの味が、今でも忘れられない。